

実施団体の概要

- プロジェクト名：さとうきびスマート農業プロジェクト（略称：サトスマ）
- 関係機関：ゆがふ製糖（株）※総括担当、農業生産法人ゆがふ農場（株）、（株）くみき、沖縄県農業協同組合中央会、沖縄県農業協同組合、琉球肥料（株）、第一農薬（株）、沖縄県

導入技術

さとうきびの栽培管理における植付け～収穫までの一連の作業を機械化し、効率化・省力化を目指すため、

- 全地球測位システム（G P S）を利用した自動操舵システムの既存農機などへの搭載による運転操作の補助
- ドローンを利用した農薬散布
- ハーベスターの自動操舵及び刈取自動化などの実証を実施。



(国頭村での実証は場)



(実演会の様子)

導入経緯

- 沖縄本島地区におけるさとうきびは、生産量・栽培面積の減少が続いている、その要因として、生産農家の高齢化等による労働力低下、離農などが考えられる。
- また、一人あたりの収穫面積が多い離島地域では、ハーベスター収穫率が高いが、沖縄本島地区は十分に集約された畠が少ないとから、収穫率が低く作業負担の軽減が進んでいないことも労働力低下の要因の一つである。
- このため、令和2年、沖縄県農業協同組合中央会及び沖縄県農業協同組合が中心となり、さとうきびにおけるスマート農業を推進するため、本プロジェクトを開始。
- 本プロジェクトの取組として、令和2年の夏植えから、国頭村安波地区で5.5haの遊休農地を利用して、ハーベスターに自動操舵システムを活用した植付けを実施するなど効率化・省力化を図っている。

取組の特徴・効果

- 行政、農協、民間企業等、多様な関係機関の連携により本プロジェクトを実施。
- 遊休農地でスマート農業の実証を行うことから、荒廃農地の整備にも寄与。今後、地域の担い手へ実証農地を引き継ぐ予定。
- 本プロジェクトでは、本島内各地でスマート機器を活用した実演会を実施。スマート農業の普及啓発にも寄与。